



「一年の計は元旦にあり」の続き

校長 小高 敏男

昨年中は、本校の教育活動に対し、保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様には、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。皆様におかれましては、すがすがしい希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

大泉小の子供たちが社会の第一線で活躍する頃には、現在の仕事の有り様も大きく変化した社会になっているとよく言われますが、そのような社会においても『自分自身で考えて判断し、周囲の人たちと協働しながら、道を切り開き生き抜いていく力』が必要であることには変わりはありません。今年も教職員が一丸となって、子供たちの心と体と頭を鍛え、『豊かな心・健やかな体・確かな学力』を獲得させる教育の推進に全力を尽くしてまいります。本年もご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

さて、新年を迎えるとよく聞くことわざに『一年の計は元旦にあり』というものがあります。「一年の目標や計画は元旦に決めるのが良い」という意味であったり、「何事も最初に計画や準備が必要であり、初めの計画ができていないと物事が上手くいかない」という意味で使われたりします。このことわざを更に調べてみると、「月令広義（げつりょうこうぎ）」という中国の伝統的な年中行事、儀式、しきたりなどが解説された書物との関連の説を見付けました。その書物の中には、「一日の計はあした（朝）にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という「四計」が書かれており、日本の『一年の計は元旦にあり』ということわざは、「一日の計はあした（朝）にあり」と「一年の計は春にあり」を合わせて作られたという説もあるということです。そして、「一年の計は元旦にあり」の続きとして、「一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」となり、「真面目に努力することで人生が決まり、身の振り方や生き方で一家の将来が決まる」という教訓となるようです。勤勉であり誠実に生きることは本当に大切なことで、昔も今も変わらないのです。

児童の皆さんも、令和8年のスタートにあたり、今年の目標や夢を決め、その実現に向けて計画を立てたことと思います。計画倒れにならないためには、「一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」と続けることが大切です。何事に対しても真面目に取り組み、希望に満ちた明るい未来を自分自身の努力によって実現させてほしいと思います。

二学期も、児童の皆さんのたくさんの成長がみられました。その成長の理由の多くは、児童の皆さんの「自分からの取組」「続けた地道な取組」「友達と協力した取組」「工夫した取組」があったからです。『自分から・続けて・友達と協力・工夫して』という4つが成長のポイントと言えます。

三学期も、自分から毎日の小さな努力を積み重ね、仲間と共に楽しく試行錯誤しながら学びを広げたり深めたりし、笑顔を忘れずに元気よく楽しい学校生活を過ごす中で目標や夢を実現させてください。

年頭にあたり、子供たち、保護者、地域の皆様にとって、新しい年が心安らかで、実り多い輝かしい一年でありますように祈念いたします。